

研究機器等紹介

埼玉医科大学リサーチパーク

リサーチアドミニストレーションセンター

埼玉医科大学リサーチパークは、ゲノム医学研究センター棟5階を改装し、平成31年4月1日より第一期開分として、実験室3室、オフィスペース3室を公開し、利用者の公募を開始しました。

本学は、埼玉西部、川越比企地区に3つの high volume center を有する総病床数約3000床の病院群であり、周辺に基幹病院も存在しないため、住民約90万人の医療圏の中心的役割を担っています。それらを背景とした診療行為の結果から得られる臨床データやサンプルの蓄積は膨大であり、本学の branding として極めて魅力的な潜在能力を有しております。この豊富な臨床サンプルの有効活用を私学医学部として如何に研究支援できるかという視点から構築されたシステムがリサーチパークであります。即ち、リサーチパークの目的は本学研究者と共同研究者としてリサーチパークに入居される企業やベンチャーが、その持てる技術力、専門性を生かして大学に潜在する膨大な臨床データやサンプルを研究成果として掘り起こし、より短時間に多くの研究業績を積み重ねることを可能とします。

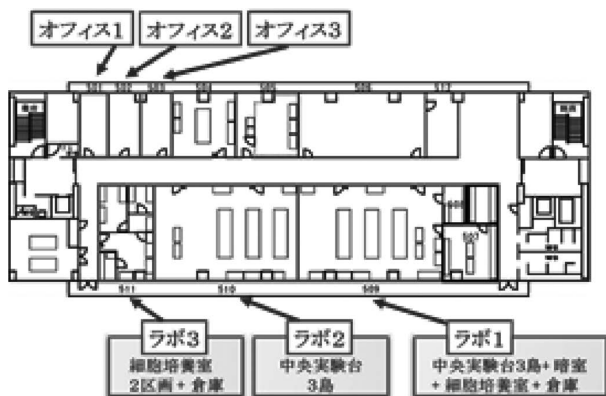
本学研究者は、教育活動や日々の診療業務で研究業務に十分に時間が充当しがたい状況と存います。そのような環境でも企業との共同研究で業績を積み重ねることが可能となります。この研究業績を礎に更なる研鑽、そして競争的資金の獲得を目指し、academiaとして質の向上を図ります。特に臨床の先生方は、診療の結果、得られたデータやサンプルを研究に活かしたいはずですが、時間の制約、場所の制約、そして機器や研究資金の制約等でどうしても思うように行かない部分が存在します。リサーチパークは、この“制約部分”に介入し、企業の専門性を outsourcing し、時短そして高効率な研究支援システムを構築します。



企業は、研究者と共に本学の臨床サンプルを使用することで実績を積み重ね、企業の根幹となる信頼を獲得することが可能となります。従ってリサーチパークのプラットフォームは医学系、科学系企業に限りません。例えば機器メーカーのプロトタイプ機器の開発における臨床サンプルの活用はその可能性を十分に秘めた1パターンになると考えております。

皆様もご存知のように臨床データやサンプルの活用は、“人を対象とする医学系研究に関する倫理指針”や“ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針”により、患者さんの個人情報をしっかり守った研究環境が必須であり、倫理審査委員会の承認が必要です。多くの場合、この過程に時間を費やされてしまいがちです。リサーチパークは、この点に関して大学倫理審査委員会と協議し、倫理指針が求める事項をクリアし、時短となるシステムを検討しております。すべては本学の最大の特徴である3つの high volume center をバックボーンとした膨大な臨床サンプルの利活用であり、これこそ本学の branding であると確信しております。

研究として論文数を積み上げていくことは極めて重要であり、academiaとして成すべき研究成果の1つの形態です。しかし、臨床サンプルを用いた研究過程での発見、新しい研究法の確立、マーカーを含む新しい診断法、そして創薬に繋がるコンパウンドの創出等知的財産に通じる研究成果もリサーチパークの重要な目的の1つです。産学連携という観点からは、むしろこちらの方がより重要かもしれません。そのため、本学研究者と共同研究企業には単にラボの賃貸提供だけではなく、ゲノム医学研究センター棟4階、6





階の中央研究施設日高ブランチ機能部門が管理する共通機器群の利活用を可能とし、その持てる技術力を存分に発揮できる環境を提供します。現在6階共通機器室には、次世代シーケンサー、フローサイトメトリー、Digital PCR、蛍光顕微鏡など高価な機器が設備されており、企業はこれら機器を自前で準備することなく使用することが可能であり、そのメリットは計り知れません。

研究成果獲得後の知的財産管理も極めて重要です。共同開発された成果は本学知財部門により管理支援を受けられます。このように本学の持つ臨床データやサンプルの利活用による知的財産に繋がる成果は、速やかな特許取得を生

み出し、ロイヤリティ収入の期待を高めます。リサーチパークの研究支援システムは、私学医学部として産学共に有益な productivity が得られ、本学 - 企業にとって win-win の関係の構築を目指すものです。最終的にはこれらの成果が周辺住民の皆様にも反映され、より住みやすい街作りに貢献できればと考えています。

現在（6月執筆中）の段階で、1社と契約を済ませ、他に1社が内定し、4社と話し合いを進めており、滑り出しはまずまずであります。特に1社とは、大学の膨大な臨床サンプルのバンクシステムの構築を計画中です。ある企業の研究員は、“臨床サンプルを研究倫理のサポートにより、より簡便に利活用できればそのメリットは莫大である。”と述べられ、他の研究員は、“臨床サンプル利用、機器利用、そして低賃貸料はまるで、Furnished lab ですね。”と我々が考えたメリットを十分に理解されているようです。大学を取り巻く環境は厳しく、国は大学等へ産学連携の促進を期待しております。本学も研究部門を教育、医療につづく重要な柱として確立していきたいと考えております。そしてさらなる社会への貢献を果たしていきたいと考えております。リサーチパークのあるべき姿など皆様のご意見もお待ちしております。

これからもご支援、ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

（文責 RA センター 千本松孝明）